

別紙解答用紙に解答すること。

問 あなたは、学校教育とスポーツとの関係についてどうあるべきだと考えますか。以下の2つの記事を参考にして、自身のこれまでのスポーツ経験を踏まえ、800～1,000字で論じなさい。

子どもたちの夏休みが始まった。酷暑への十分な対策とともに、スポーツや課外活動を楽しみ、深める季節でもある。その現場では「脱勝利至上主義」へと、大きくかじが切られ始めた。流れを滞らせることなく、加速させる必要がある。

小中学生を中心としたスポーツ少年団を統括する日本スポーツ協会（JSP0）は今年、この世代を対象にした大会のあり方を示す運営指針を新たに打ち出した。交流機会の充実、出場機会の確保、スポーツの品位や倫理の強化が、その3本柱だ。

交流については試合以外にも選手やチーム間で親睦を図る機会などを設け、出場機会については登録選手全員が出られるような独自ルールの策定を求める。品位・倫理の面では、フェアプレー賞の授与や子どもへの研修の実施などを定める。それぞれの全国大会の名称は今後、「エンジョイ！」と「フェスティバル」の言葉を入れるという。

この取り組みは、8月上旬に開幕予定の軟式野球をはじめ、バレーや剣道など少年団の全国大会から本格化する。その後は、各競技団体が催す大会や自治体に関わる地域レベルまで広げる考えだ。改革の目的は、勝利至上主義との決別だ。「ゆきすぎた勝利至上主義が散見される」との理由で、柔道が小学生の全国大会の中止に踏み切ったのは2022年だった。健康に影響するような過度の減量や、度を越えた言葉の指導が目に見えたせいだ。

心配なのは、勝利至上主義にはハラスメント行為との親和性が高いことだ。集団主義や上下関係の過度な尊重、指導者への依存、知識不足といった要素を媒介に結びつきやすい。大人の満足が、いつしか試合や大会のもの差しとなっている面も否めない。昨年度1年間でJSP0の窓口が受け付けたハラスメントの相談は、過去最多の536件。指導における暴言が4割を占め、頭をたたいたり、球を投げつけたりする暴力行為を加えると5割を超える。

しかも被害者の半数が小学生だった。子ども本人が声をあげにくいことを考えれば、氷山の一角だろう。指導者の情熱を割り引いても、憂慮すべき事態というしかない。

子どものスポーツを守るには、指導者と保護者の意識改革がカギになることは間違いない。大会運営をめぐる改革によって、関わる人たちが知恵をしぼり、協働作業を高める意義は大きい。子どもの祭典を、着実に子どもものにしていきたい。

出典：(社説)「子どものスポーツ 「勝利至上」から脱却を」『朝日新聞』朝刊2025年7月27日（文意を損ねない範囲で改行の場所を一部変更した。）承諾番号：26-1092
朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。

もはや教育ではなく、人権侵害と言わざるを得ない。熊本県の私立秀岳館高校サッカー部で起きた指導者の暴力問題だ。30代の男性コーチが部員を殴ったり、蹴ったりしている動

両面印刷

画がネット交流サービス（SNS）に投稿され、瞬く間に拡散した。別の部員がひそかに撮影したものだ。学校が全校生徒に行ったアンケート調査によると、このコーチによる暴力は24件確認された。

さらに深刻なのは問題発覚後の対応だ。監督がミーティングで動画を投稿した部員を名指して「加害者」と呼び、「完全な被害者は俺」と発言した。その音声はネット上に流出した。ミーティングの後には、部員11人が並んで「迷惑をかけてしまい、申し訳ありません」などと謝罪する動画が、サッカー部の公式SNSで公開された。撮影には監督が関わっていた。動画はすぐに削除されたが、これでは監督が部員を使ってコーチの暴力をもみ消そうとしたとみられても仕方がない。指導者としてあるまじき振る舞いだ。

背景には部活動を取り巻く封建的な体質がある。同校サッカー部は2014年に全国選手権出場を果たすなど、県内屈指の強豪だ。約200人の部員がおり、寮生活を送る生徒も多い。外部の目が届きにくい環境の中で、激しいレギュラー争いが行われている。約20年にわたって部を率いる監督は大きな力を持ち、「校長補佐」の肩書で教頭と同格の立場にある。部員に対する高圧的な態度は、傲慢さの表れではないか。

部員たちは校内で助けを求めるすべがなく、SNSで被害を訴えるしかないほど追い込まれていたのだろう。暴力のまん延を防げず、生徒を守れなかった学校の責任は極めて重い。

暴力や体罰は同校だけの問題ではない。勝利至上主義やスポーツ偏重の傾向が、部活動をゆがめている。

スポーツ指導の鉄則は信頼関係を築くことにある。選手の目標や考えを尊重しながら、丁寧に助言していく姿勢が重要だ。部活動の全国的な改革が検討され、指導者のあり方も問われている。学校現場には「生徒本位」を徹底する努力を改めて求めたい。

出典：(社説)「部活動指導者の暴力 教育どころか人権侵害だ」『毎日新聞』朝刊2022年5月12日（文意を損ねない範囲で改行の場所を一部変更した。）

以上

両面印刷